

---

## 介護保険施設・社会福祉施設における災害への備え

(西上あゆみほか、日本災害看護学会誌 14: 15-23, 1993)

2013年7月19日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

---

要援護者にかかわる施設である介護保険施設・社会福祉施設についての災害に対する備えを調査している研究は少なく、実態は明らかになっていない。そこで著者らは災害時に多くの要援護者を受け入れが考えられる施設では、どのように備えが行われているのかについての実態を把握することが必要と考えた。

本研究の目的は要介護者を受け入れる施設の災害への備えに関する実態調査から、これらの施設における災害に対する看護職者の備えを明らかにし、看護協会が行える支援に関する示唆を得ることである。

本研究はA看護協会に登録している介護保険施設・社会福祉施設看護部責任者90名を対象に行った。調査項目は、施設概要、防災計画、災害訓練、日常の備え、災害への備えについてであった。

本研究の結果をまとめると以下のように集約される。

- 災害による疾病者の受け入れ経験がなく、災害対策組織は約半数しか想定されていないものの、マニュアルは約9割の施設で作成され、見直しも約9割の施設で行われていた。
- 職員の連宅網は全施設にあるが、出動基準を持っている施設は4割程度であり、災害時の追加受け入れは1割未満しか予定されていなかった。
- 訓練に関する実施については先行研究の26.7% (2006, 中村ら) に比べて、62.3%と実施率が高かった。
- 災害対策組織のある施設では、看護職者の参加率は約9割であった。災害対策では設備の定期点検、備蓄品、耐震構造の確認は7割以上できているが、物品の落下防止や備品の固定が3割程度の施設でしかできていなかった。
- 災害の少ない地域においては実践経験や支援ナースの認知が高いといえず、施設の備えに不安が見られる。看護師の継続教育として看護協会の研修で取り上げ、防災対策や災害支援ナースについてより周知してもらえ活動、情報提供の必要がある。